

# 北九州市におけるESD活動の現状と課題を考える ——北九州ESD協議会加盟団体へのアンケートから

神 山 智 美

## はじめに

2014年（平成26年）に「国連（ユネスコ・ESD）の世界会議・ESDの10年・全体総括会議」が名古屋市で開催される。北九州市も開催地としていち早く名乗りを上げていたが、第10回生物多様性締約国会議（COP10）を開催した名古屋市に、開催地の榮譽を譲った形となっている。とはいえ北九州市も、ESD促進事業の取組初年度にあたる2006年（平成18年）に、RCE（Regional Centers of Expertise on Education for Sustainable Development: 地域拠点）として認定された経歴を持ち、「ESDの10年・全体総括会議」をコアに展開されるであろう「ESDの10年・世界の祭典（仮称）・2014年（平成26年）」と、それに先駆けて北九州市で開催される「RCEアジア太平洋会議・2013年（平成25年）」においては重要な役割を果たさねばならず、各種の試みを始めている。併せて、文部科学省補助事業平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」選定取組（幹事校：北九州市立大学）「まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成」も推進途中であり、「オール北九州」でESDを推進していく土壌が出来上がりつつあるといえる。

そもそも「ESD」とは、Education for Sustainable Developmentの略であり、「持続可能な開発のための教育、持続発展教育」等と訳されている。2005年（平成17年）から「国連ESDの10年」をキャンペーン期間として、全国各地で進められている。北九州市においても認知度は高まっているものの未だに十分とはいえず<sup>1</sup>、2013年、2014年における各種開催予定事業に向けての早急な取組が望まれてもいる。

こうしたなかで筆者等は、環境省のイニシアティブで進められている「+（プラス）ESDプロジェクト（ESDの理念に合致した様々な活動のデータベース化と連携促進、すなわち「見える化」「つながる化」と表現されている）（以下「+ESD」という。）<sup>2</sup>」に注目し、協議会に加盟する団体・個人（以下、「加盟団体」という。）に個別調査票調査（アンケート）（以下、「アンケート」という。）を実施した<sup>3</sup>。つまり、概して北九州市におけるESDは個別の市民団体が主体であり、総じて系統立てられていないという評価を受けている。そこで、これらを「見える化」「つながる化」することで、よりESDに広がりや厚みを持たせ、活性化できるのではないかと考えたからである。そのために、まずはこれまで活動を総括する立場にあった北九州ESD協議会（以下、「協議会」という。）について概観し（1）、協議会に自主的に加盟する団体がそれぞれどういうことを望んで当該協議会に加盟し、そして今後の発展的な活動のためにどのようなサポートを協議会や他の活動主体に望んでいるのかということアンケートからできるだけ明らかにするよう努めた（2）。そのうえでこの観点、北九州市のESDの特徴である“「市民主体」という良さはあるものの、系統だっていないため全体像もつかみにくい”という欠点を補うために活用する方策を検討した（3）。

## 1. 北九州ESD協議会とは

はじめに、北九州市のESD活動を総括する立場にある協議会について概観する<sup>4</sup>。協議会は<sup>5</sup>、平成18年（2006年）に発足した、教育機関・市民団体・企業・行政等からなるネットワーク組織であり、公募で選定された「未来パット」という愛称をもっている。発足後の組織整備と事業展開は素早く、平成20年（2008年）にESD-JというESDの全国組織に加盟し、RCE国際会議（於スペイン・バルセロナ）にも出席している。その後、順調に活動の幅をひろげ、加盟団体を増やしている。ただし、市の一機関あるいは外局というわけではなく、一つの協議会組織であり、市の助成を受けながら北九州ESDを集約し牽引している存在である。

また、北九州市のESDの特徴は、以下の4点に集約される。まず、①「地域の背景を生かす」、すなわち、市民、特に女性運動がきっかけとなって、産

官学民協働で大気汚染問題に科学的に対処して解決したという歴史を生かして<sup>6</sup>、②「地域の資源を生かす」、すなわち、活発な市民団体活動や様々な教育施設、人材等を生かし、③「現在の活動を基盤にする」、すなわち、協議会のメンバーに大きな負担をかけず、「無理なく」継続して参加してもらいながら、現在の活動の中のESDの要素に気づいてもらう、もしくはESDの要素をプラスしてもらう、④「地域の目標がある」、すなわち、環境未来都市という未来志向の地域の目標があるということであろう。注目すべきは、多義的な活動分野で、市民それも女性が活動の中心であることがあげられる。環境保全活動は多いものの、ジェンダーに関する市民活動の活発さには特筆するものがある。なお、本アンケートによる調査研究は、③の「現在の活動の中のESDの要素に気づいてもらう、もしくはESDの要素をプラスしてもらう」という部分への貢献も願って実施しているということを注記しておきたい。

## 2. 協議会加盟団体へのアンケートから

以上のように、実体として北九州市のESDの中心的機能の一翼を担っている協議会の概略を踏まえ、協議会の運営委員会の了承の元、アンケートを実施した。問いは全部で15問であり、71団体及び個人（以下、これらの団体及び個人を「加盟団体」という。）に実施し<sup>7</sup>、有効回答数は48<sup>8</sup>であった。なお、アンケートは資料1として最後に添付している。

これは、将来的には+ESD推進の「仕組み」と「仕掛け」を作り出していくための情報収集ではあるが、さしあたっては、アンケートに答えていただくことで新しい概念や視点をインプットする機会とし、今一度ESDについて考えていただくための好機の創出でもあった。

有効回答数の内訳は、71加盟団体に協力を依頼し、有効回答数は48であった。その内訳の多くは、財団法人、社団法人、公益社団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人等であり、美術館及び博物館2、大学3、自治体およびその機関5、株式会社及び有限責任事業組合2を含んでいる。

以下、順に結果のいくつかを呈示して若干の検討を加えていく。

## (1) 協議会加盟時期と加盟理由

「見える化」「つながる化」のために、まずは加盟団体が協議会に加盟することにした契機と経緯を調査した。46%の加盟団体が協議会設立時から加盟していた。その後、少しずつ加盟団体が増えてきている様子が見える。ここから、平成18年（2006年）9月まではこうした各種団体の活動をオーソライズできる組織がなく、ある意味ではプラットフォームたるべき組織・機関が必要とされていたため、加盟団体が募れたということも可能であろう。北九州にとっては、そのプラットフォームがESDでありESD協議会であったということになる。

また、加盟のきっかけは、「協議会関係者からのすすめ」が最も多く56%を占める。ただし、第2位は「団体がESD関連の事業をしているということから」（33%）、第3位は「自発的に」であり（21%）、さらに、「他の団体が加盟したから」という理由は0%であったことから、主体的に加盟を決定する団体が多くを占めるということもわかる。

問1：あなたの団体はいつごろから北九州ESD協議会に加盟されていますか？

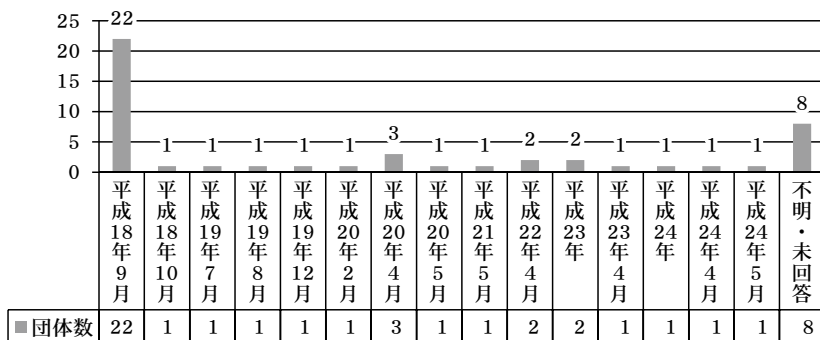


図1：協議会への加盟時期<sup>9</sup>

問 2：あなたの団体が北九州ESD協議会に加盟されたきっかけは何ですか？

(複数回答可)

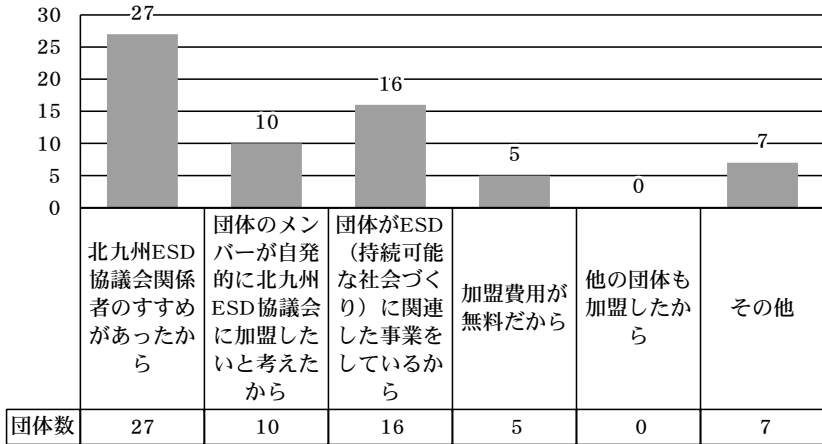


図 2：協議会加盟のきっかけ（複数回答）

## （2）各種団体の取組

ESDに関する取組が正しく理解され、それが加盟団体を増やすことに活用されているかということの実証にもなる質問項目である。概してESDは環境教育と重なるところが多く、北九州市が環境未来都市であるため環境関連の取組の多さは読みとれるものの、ESDとしての取組が多岐にわたっていることが確認される。これこそが北九州市のESDの特徴でもある。



を得られる」(56%)、第2位は「協議会関連で学びの機会を得られる」(41%)、第3位は「協議会のメーリングリスト(以下、「ML」という。)で他の団体の情報が得られる」(33%)であった。いずれも情報を得る、もしくは学びの機会を得るということにメリットを感じている団体が多いことが確認される。

また、問6では、協議会にさらに望むことを尋ねた。自由記述であり、かなり具体的に記していただいた。最も多いものは他団体等との連携・意見交換などの機会の創出である(25%)。協働や連携が可能かどうかを確認できる仕組みがあると良いとの意見や、連携先を具体的に若い人の多い団体や外国人グループと指定しているものもあり、実際にそうしたニーズが存在していることが分かった。その他としては、学びの機会の創出や、世界のESD動向の情報提供を望む声、新しい視点の提示や北九州ESDの方針提示、講師派遣、ひいては加入団体の各プロジェクト会議等への参加率が悪いと、それらへの働きかけの要望もあった。

以上に関連して、問7では、過去1年間の協議会活動(コンサートや報告会なども含む)への参加回数、問8では、過去1年間の加盟団体が所属するプロジェクトのミーティング(会議)への参加回数を尋ねている。特に注目すべきは、問8で過去1年間に複数回(2回以上)プロジェクトの会議に出席した団体数は16加盟団体であり(33%)、全加盟団体を71団体とすると、わずかに23%を占めるに留まる。

以上を要するに、協議会に求められている事柄はおおよそ以下の2点であろう。1点目に、現在では、MLで情報を得ることと協議会ホームページ(以下、「HP」という。)において団体の活動を紹介できるのみであるが、適時の情報の取得と発信、さらには交流していける仕組みづくりである。ただし、「協働可能かどうかはすぐにわかるシステム」という要望もあるが、「すぐにわかる」ということを重視するならば、最新情報へのメンテナンス費用や通信連絡コストが必要となるため、克服せねばならない課題が多い。2点目に、協議会が方針を呈示しそれに沿って他団体と連携・協働した活動ができる仕組みの構築である。2点目の実効性を高めるには、協議会にかなりの権限を掌握させることが必要になる。例えば「(プロジェクト会議等への)加入団体の出席率が悪い」

ということに何らかの施策を講じていくことが要望されているとすれば、プロジェクトの中身をより充実したものとするような工夫とともに、諸団体に役割を配分できるよう、北九州ESDの推進に関するある程度の責任と権限の掌握が必要となる。また、方針の提示が要望されているが、この実効性を高めること、すなわち提示すべき方針を各プロジェクトや各種会議で練り上げていき、結果として出来上がった方針に沿った活動を、各団体が着実に遂行しているかどうかとも検証する仕組みが必要になってくる。

すなわち、現状はそれぞれが任意かつ自主的に連携していることで成り立っている「協議会+加盟団体」という組織であるのだが、協議会に求められることを実現していこうとすれば、そこに統制・管理の仕組みを加えることが必要になる。そのためには、各加盟団体から協議会へのいくばくかの権限の委譲が、さらには経費の拠出も必要となってくるであろう。ゆえに、現状では少数特定の加盟団体が協議会の活動を実質的に支えているのみであるが、各加盟団体が、どこまでのことを望んでいるのか、さらには、どこまでの協力をして協議会を盛り立てられるのかということにこそ係ってきているといえ、今後の検討課題となろう。



問5：あなたの団体が北九州ESD協議会に加盟されて、どのようなメリットがありましたか？（以下のあてはまる）□にレを記してください。（複数回答可）

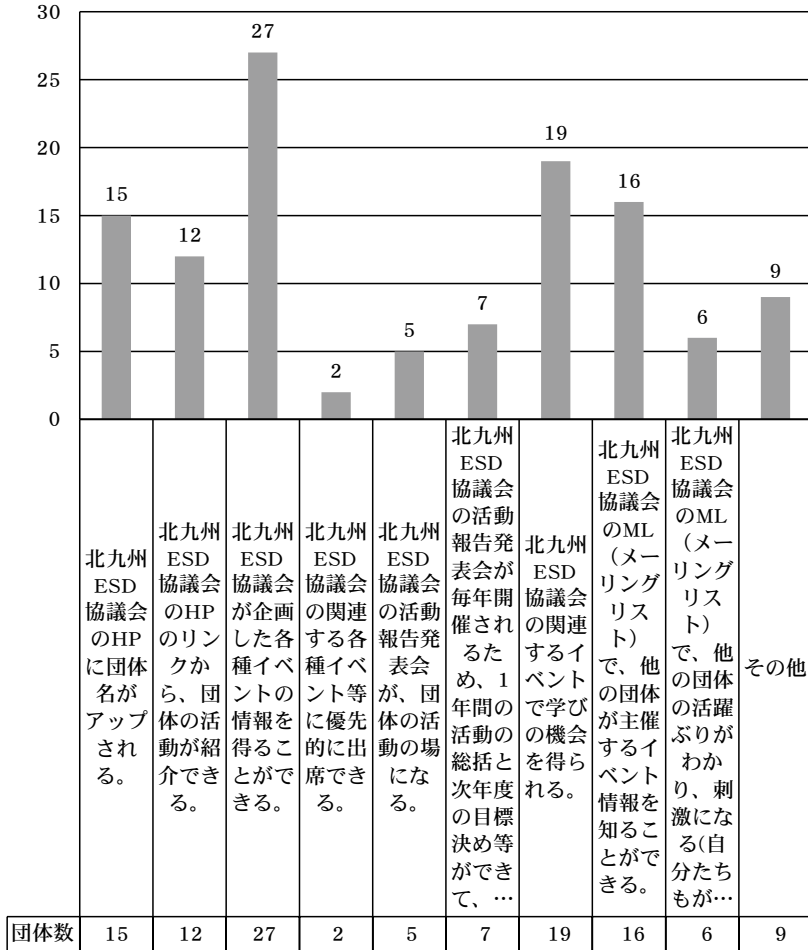


図4：加盟のメリットについて（複数回答）

問6：あなたの団体が北九州ESD協議会に加盟されていて、さらにどのようなことを望まれますか？（自由記述<sup>10</sup>）

〈他団体等との連携・意見交換など〉 12回答あり

- ・各プロジェクトチームとの情報交換・連携・協働。
- ・ネットワークの広がり。
- ・若い世代との連携。
- ・市民にわかりやすく参加しやすい活動を望む。外国人市民と一緒に行動する企画ができると良い。
- ・協働可能かどうかがすぐわかるシステム：MLでは広報が一方的なので。

〈教育関係〉 4回答あり

- ・持続可能な開発のための教育に関する講師の育成及び派遣。
- ・「国の施策と環境」の学習の機会をつくってほしい。

〈活動内容等の明確化〉 2回答あり

- ・北九州のESDの目指す北九州らしいSDとは何か、など北九州ESDに関する共通した目標の設置。

〈その他〉 9回答あり

- ・ジェンダー分野の強化。
- ・新しい視点。
- ・北九州はもちろん、世界的なESDの動きについて流れの方向性等、最新の情報を発信してほしい。
- ・リオ+20に参加した成果を生かしていただきたい。
- ・加入団体の出席率が悪い。

問7：過去1年間で北九州ESD協議会の活動に参加した回数は何回ですか？

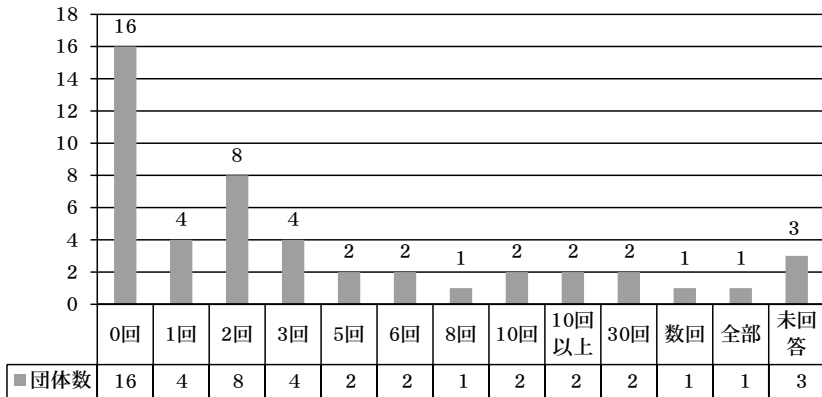


図5：過去1年間における協議会活動への参加回数

問8：そのうち各プロジェクトのミーティング（会議）に参加した回数は何回ですか？

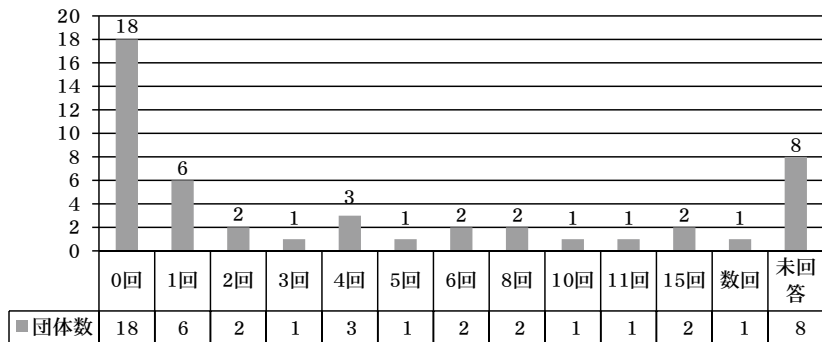


図6：過去1年間におけるプロジェクト会議への参加回数

#### (4) 加盟団体の活動とESDとの関連性

加盟団体が自らの団体活動の中にESDの要素を多く見出すことができれば、協議会を介してのESDとしての「見える化」「つながる化」は維持しやすい。そこで、問10で加盟団体とESDとの関連を尋ね、そこで「(関連性があると)非常に思う」「(関連性があると)まあまあ思う」と回答した加盟団体に、問11にてその理由を尋ねた。併せて、これらの問いの設定のねらいの一つとして、記入段階で加盟団体各自の活動におけるESDの要素を再検討していただくことを視野に入れていた。

結果として、問10で「(関連性があると)非常に思う」「(関連性があると)まあまあ思う」と回答した加盟団体は37(77%)であった。さらに、問11の理由は、活動内容に着目して関連性がある(子供から大人までの教育・学習・啓発(情報発信)をしている等、及び内容が合致している)と回答したのは22加盟団体(46%)であり、ESDと加盟団体の活動目的等が合致していると回答したところが9加盟団体(19%)であった。その他として、協議会やその加盟団体との連携が多いことから、ESDとの関連性を見出しているという回答もあった。

問10：あなたの団体の活動とESD（持続可能な開発のための教育）の活動との関連性を次の選択肢のうちから一つ選んでください。

- 非常にそう思う⇒問11へ                      まあまあそう思う⇒問11へ  
あまり思わない                                      全く思わない

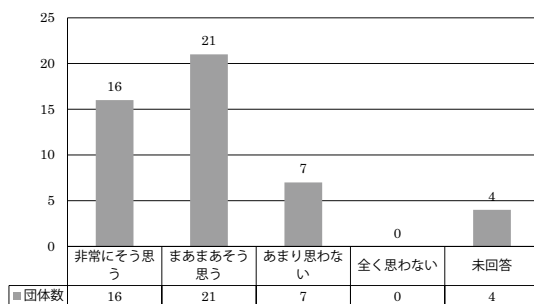


図7：加盟団体の活動とESDとの関連性の有無

問11：問10で、「非常にそう思う」「まあまあそう思う」と答えられた方にお尋ねします。あなたの団体のESDらしいところを教えてください。(自由記述)

- 〈子供から大人までの教育・学習・啓発（情報発信）をしている等〉 20回答あり
- ・人権啓発。
  - ・国際理解教育を通じた開発教育活動。
  - ・環境教育は地道にコツコツとやっていくことが必要であるから。
  - ・環境（3R）、人権（認知症）、健康（高齢者の健康・心の健康）、教育（子供の教育）。
  - ・多文化共生社会の推進のため、国際理解教育講座等、広く市民に啓発する講座を開催。
  - ・環境に関する問題意識をもち、セミナー等開催を通じて、広く会員に学習の場を提供している。
  - ・公開講座等の一般向け講座開催を通して行う環境教育の推進による人材育成。
  - ・小学生から高校生及び大人を対象にした日頃の学習の中にジェンダー・国際社会・環境などについても取り入れている。大人を対象とした講座やイベントで少子化や地域社会についての課題解決を探っている。
  - ・子どもたちへの体験活動を実践することで、人間と道具、人間と環境、人間と人間、といった関わりを学ぶことができること。関わりの中でこそ人は生きることができるということを肌身で知るとのこと。
  - ・市内の近隣施設と連携し、市内小学4年生が受講する環境体験活動の受け入れを行っている。この体験活動の実施により子供たちへの環境教育に資する。
- 〈内容が合致している・特にジェンダー関連〉 2回答あり
- ・男女共同参画社会の形成のための事業推進。
- 〈ESDと団体の活動目的等が合致している〉 9回答あり
- ・団体の活動目的と合致している。
  - ・総合的な視点で取り組んでいること。
  - ・会員が女性ということもあり、環境（自然・食・教育など）への取り組みを長年おこなっているところ。男女平等社会の実現もしかり。
  - ・環境問題を考えるうえで、ESD（持続可能な開発のための教育）の重要性が高い。
  - ・持続可能な様社会の実現を目指す。
  - ・身近な生活からできることを見直し、未来につなぐ、1人が100歩進むのではなく100人が1歩前進することを考える。持続可能な社会をみんなで考え行動する。
- 〈その他〉 6回答あり
- ・ユースチームがキーネットの加入団体を通じてイベント参加して下さるので、個々人の団体との関連は多いと思います。

## (5) 他の加盟団体との協働可能性

問12、13は、「見える化」「つながる化」のために、他の加盟団体との協働の意向を尋ねた問いである。

加盟団体間での協働が活発であれば、それは協議会に未加入であるが協働を模索しているという団体への大きなPRになるからである。問12の他の加盟団体と協働したいことについては、11加盟団体（23%）が加盟したい具体的内容を挙げ、5加盟団体（10%）は既に協働していると回答している。よって、双方合わせて16団体（33%）は、協働を志向しているものと考えられる。しかしながら、その他意見のなかには、協働が必要と考えているもしくはその意向があるものの、「手が回らない」「調整しづらい」という回答もあり、協働できないのは、当該加盟団体のリソース等の制限によるものか、それともよりいくばくかの専門的ないしは技術的サポートがあればその壁を突破できるものかが明確ではない。

また、「他の団体のことをよく知らないので協働できない」という回答もあるが、これには同じく回答にあった「参加率の低い団体のことをよく知らない」という問題点が浮上しているといえる。

問13の困っていることや受けたいサポートについては、概ね共通の認識が得られるものとして「ESDや協議会の認知度が低い」「イベント日程が他のものと重複する」「参加者が少ない」「MLの活用の仕方など広報のサポートがほしい」がある。加えて、着目すべき点としては、協議会の位置づけがある。広報活動や連携・協働のありかたについて、協議会のみが中心になることに危惧を抱く回答とともに、もっとトップダウンかつリーダーシップを発揮してサポートしてほしいと願う回答もある。ここには、(i) 協議会のイベント中心では真のESDとはいえず、市民活動が中心となるべきであり、協議会はそれを下支えする存在であるべきである、という考え方と、(ii) 協議会がESDのアピールを行い、より行政と連携してトップダウンで広報活動を担い、加盟団体に参加も義務付けて行くべきである、という考え方が混在しており、目指すべき九州型ESDのあり方を含めて、今後の議論が必要なところといえる。

問12：他の北九州ESD協議会メンバーと協働したいことはありますか？あればご記入ください。(自由記述)

〈具体的な項目あり〉 11回答あり

- ・リスクコミュニケーションについての調査、研究などに協働していただける団体があれば嬉しいです。
- ・八幡駅前英語版マップ作り。JICA研究員との交流事業。
- ・活動の現場へ出張や交流（見学）。地域の伝承・伝統に関する公民館行事やイベントの実態。教育現場の理解を得た学校を中心としたESD活動（父兄会）拡大。
- ・子ども体験活動。清掃活動。
- ・少子高齢化をネガティブに考えるだけでなく、メリットや少子化を防ぐ手立てを考えるシンポジウムをしたい。
- ・環境ミュージアムの学習サポーターとしての協働。
- ・ESD普及のため、メルマガ等で活動について発信できればと思っている。
- ・災害・震災支援や買物袋持参運動等、個々人の活動では広がりが遅い等、全体へ呼びかけると大きく早く成果が上がる。
- ・男性や若い世代への男女共同参画社会の形成に関する事業展開。
- ・東田地区の他文化施設などの団体との連携強化。
- ・各団体やプロジェクトの自主性・主体性を尊重しながら、広報・啓発をはじめ、必要に応じて市役所内部署との連絡調整を行い、協議会全体や団体各々の活動が円滑かつ、パートナーの輪がさらに広がるよう努めたい。

〈すでに協働・参加しています〉 5回答あり

- ・当センターのESD研究会へ参加していただいている。
- ・エコライフステージでは共にESDのブースの応援をしている。他の団体が参加している活動の場を紹介され参加している。
- ・場所、役割からユースプロジェクトのミーティング場所等の要望を受けている。本学の許容範囲内で協働できればハッピーである。
- ・当協会の「共生の地域づくりゼミ」では、ESDメンバーも参加している。人づくりで共同できる場面は多いと思う。
- ・当団体のメンバーは、環境意識が高くかつすでに他の環境団体と活発に交流している方々なので、ある意味では協働を行っていると考えている。

〈その他〉 8回答あり

- ・あるが、手が回らない。
- ・協働した取り組みが必要と考えているが、時間的に調整しにくいのが現状です。
- ・各団体の参加率が向上してくれば、詳細が解り接点もはっきりしてくると思います。
- ・他のメンバーのことをまだあまりよく知らないなので、協働できるイメージができていません。

問13：ESD活動をやっている、困っていることはありますか？もしあれば、そのときにどのようなサポートを受けたいですか？（自由記述）

〈困っていること〉

- ESD協議会の存在、活動が知られていない、又知っていても理解されていないので説明に時間がかかる。
- ESDそのものの概念が捉えにくいと感じています。
- 北九州が目指す北九州らしいSD（ESD）が明確でない。
- 参加者（団体）が非常に少ないこと。進展が目に見えにくい。
- ESD活動が協議会のイベント中心であること。個々の市民活動こそがESD活動であることの認識を全体が共有できていない（特に引っ張っていく人たち）。
- 学生の意識をどのように高めるか、自主的活動にどのようにつなぐのか、ということが大きな課題です。体験後の感想は良かったという意見がほとんどですが、その体験が次につながっていません。
- 活動自体があまりやられていません。
- 屋外での行事は気候のよい時期に実施することが多いが、他団体の行事と重なって、当団体のメンバーや一般参加者が少ないことがある。
- MLの使い方。自分の団体の広報にどの程度使用可能化などがよく分からない。

〈受けたいサポート〉

- ESD協議会の存在、活動について地域で推進することと、やはりトップダウンで校長会、市民センターの館長会議でもっとアピールしてほしい。
- 講座等を行う際の広報活動手段。加盟団体同士で、チラシの配架等を協力し合えるような体制を作るなど、広報に関するサポートを受けたい。
- 事業（プログラム）の周知（告知）。ESD協議会名で事業（プログラム）の参加説明書を押印してほしいです。（あくまで希望ですが）参加者の励みになります。
- 年1回以上の参加の義務付け。
- 個々の市民活動こそがESD活動であることの認識を全体が共有するための学びが必要。RCEというものは個々の会の活動をしっかりアピールしてあげることが大切なのでは。
- 「ESD」的活動は市内のあらゆるところで行われているが、ESDについての理解が浸透しておらず、認知度が低い。そのため、協議会内プロジェクトや各加盟団体、個人会員など協議会全体でESDの実践事例（モデルケース）を数多く生み出していただき、広く情報発信することで、新たなESD事例が創出され、ESDが100万市民に浸透することを期待する。

〈その他〉

- 困っているというほどでもないが、「環境オタク」のものではないということを広くPRしていきたいものである。すでに良いパンフレットができていますので常備しておきたい。
- 行政の縦割りの考え方に対して、横につなぐことの実践。



## (6) ESD理念

加盟団体は、原則としてESDの理念のもとに協議会に集うという形をとることが自然であるため、「今なぜESDなのか？」ということが正しく理解されていなければならない。

そこで、問14、15は、まずもって加盟団体はESDをどのように理解しているのか、その理解において困難はないのかということを探った問いである。

問14にて、ESDについて抱くイメージについて尋ねたところ、「教育・学習」が最も多く、次いで「人づくり」「コミュニケーション（地域を作っていくツール）」であった。善い事なのになかなか浸透していないという意見がある傍らで、「これまでの活動で、既にこれ等ESD活動内容に類したものは行っている。今何故にこの様な（ESDという）型を取る必要があるのか少し疑問である。」という回答や「ESDはあまりにも多くの分野を網羅しており、何をやりたいたいのかがよくわかりません。」「ESDの理念全てが大切なことだと思うが漠然としたイメージでしかなく伝わりにくいと思う。」との、いわゆるマイナスイメージの回答があった。確かに、現段階においては、これらの指摘はもっともであろう。後発といわざるをえないESDという概念の内容には賛同するものの、どうして今になってこうしたESDという括りで活動することが求められているのか、またESDとして連携・協働していく必要があるのかという部分は、未だ十分な議論の俎上に上っていないからである。

とはいえ、「問15あなたのご活躍の中で、今後どのようにESDの理念を展開していこうと思われていますか？」では、ほぼ全ての加盟団体が今後の展開を明記していることから、ESDの理念や展開方法等の全てに賛同できているわけではないが、各加盟団体が力強く活動を展開している様子や意向が伝わってくる。

ESDは、SD（持続可能な社会）のためのE（教育）であり、SD概念の創生によって創られてきたものである。よって、今後の課題としては、「いまなぜESDなのか」ということを、SDという概念を捉えるところから始め——特に地域とそこに住む人々のあり方という点で捉えなおしそのための教育（E）のあり方を、より深く考えていく必要があるであろう。

問14：あなたの考えるESDについてのイメージをご自由にお書きください。

(E (教育) とSD (持続可能な開発) とのつながりについてのイメージ等、ご自由にお書きください。)(自由記述)

〈マイナスイメージ (回答の中からマイナスイメージのもののみ抽出した)〉

- ・これまでの活動で、既にこれまでESD活動内容に類したものは行っている。今何故にこの様な型を取る必要があるのか少し疑問。
- ・ESDはあまりにも多くの分野を網羅しており、何をやりたいのかがよくわかりません。
- ・ESD及び日本語である「持続可能な開発のための教育」という言葉がピンとこない。言葉の意義が広すぎて中身がきちんと理解できない。
- ・ESDの理念全てが大切なことだと思うが漠然としたイメージでしかなく伝わりにくいと思う。

### 3. 北九州ESDの「見える化」「つながる化」へ

加盟団体が、加盟したきっかけの多くは、協議会発足時に協議会からの働きかけがあったためである。その後は、徐々に加盟団体数を増やしている。なお、加盟団体の多くは、団体の活動の性質もしくは活動のそのものがESD関連であるという自覚に基づいている。加盟団体が協議会に求めているものとしては、団体そのものがESDに関連した活動をしているか活動目的がESDと合致しているため、それを進めるためのサポートが得られることを期待してのものである。

現状においては、協議会への加入は任意かつ無料であり、加盟団体は協議会からのMLで情報を受け取る、もしくはHPやMLで情報発信ができる等の受益を得つつ、協議会という傘の下に集うことでお互いに連携できるというメリットもある。こうしたサポート体制に対して明確な不満足という意思表示はみうけられない。しかしながら、多くの加盟団体が積極的に他の団体との協働の機会や活動拡大を志向しているにもかかわらず、協議会がそれをうまく認識し適切に協働のためにサポートしたり、もしくはイベント開催日時が重複しないような調整をしたり、参加動員をかけたり、ということは十分には実施できない様相が確認できる。すなわち、「見える化」「つながる化」等ではできない実情がうかがえる。よって、こうした「見える化」「つながる化」

が進めば、より一層の加盟会員増とESD活動の活性化が期待できるものと考ええる。

他方、具体的に「見える化」「つながる化」を進めるにあたり、以下の4つの論点を議論しながら進めねばならないといえる。

第1に、協議会の位置づけである。広報活動や連携・協働のありかたについて、協議会のみが中心になることに危惧を抱く回答とともに、もっとトップダウンかつリーダーシップを発揮してサポートしてほしいと願う回答もある。ここには、(i) 協議会のイベント中心では真のESDとはいえず、市民活動が中心となるべきであり、協議会はそれを下支えする存在であるべきである、という考え方と、(ii) 協議会がESDのアピールを行い、より行政と連携してトップダウンで広報活動を担い、加盟団体に参加も義務付けて行くべきである、という考え方が混在しており、目指すべき北九州型ESDのあり方を含めて、今後の議論が必要なところといえる。

第2に、「これまでの活動で、既にこれ等ESD活動内容に類したものは行っている。今何故にこの様な（ESDという）型を取る必要があるのか少し疑問である。」という回答や「ESDはあまりにも多くの分野を網羅しており、何をやりたいのがよくわかりません。」「ESDの理念全てが大切なことだと思うが漠然としたイメージでしかなく伝わりにくいと思う。」との、いわゆるマイナスイメージへの対処である。これらには、ESDは、SD（持続可能な社会）のためのE（教育）であり、——SD概念の創生によって創られてきたものであるから、今後の課題としては、「いまなぜESDなのか」ということを、SDという概念を捉えるところから始め——特に地域とそこに住む人々のあり方という点で捉えなおすための教育（E）のあり方を、より深く考えていく必要があるといえる。

第3に、このSDを捉えなおすという作業は、「ESDというと環境のことでしょう」と言われるということへの適切な対処の仕方を学ぶことでもある。しかしながら、「ESD＝環境問題」という認識はあながち間違っているともいえない。というのも、日本における環境問題はいわゆるエコ（ECO、ECOLOGY）に限定されているが、国際的に環境問題といえばジェンダー、労働問題、エネ

ルギー問題、平和問題等を含む広い概念であるからである<sup>11</sup>。しかしながら、一般的な日本人が「ESD＝環境問題」ととらえるならば、それは「ESD＝エコ活動」だと捉えていることになるため、間違いであると言わねばならない。筆者としてはこのジレンマに苦しむのではあるが、いずれにしても、「ESD≠エコ活動」ということはより正確に伝える必要があり、これが、エコ活動以外の加盟団体を増やしていくこと、ひいては多様な活動によって支えられている北九州ESDの特徴を、より生かしていけるものと考ええる。

第4に「まちなかESD」とのつながりである。ここで、「まちなかESD」には、本稿の冒頭で少しふれたが、平成24年度文部省補助事業・大学間連携共同教育推進事業・「まちなかESDセンターを核とした実践的人材育成」（幹事校は北九州市立大学）のことを指している。平成24年（2012年）から5年間のものである<sup>12</sup>。市内の大学が中心となっており、この内部では事業展開に関する綿密な会議・打ち合わせがなされており、「見える化」「つながる化」がなされている。さらに、推進するにあたっては北九州市の再生のためにも「オール北九州」で進めるものと認識されており、協議会も加盟団体もその他市民団体も、いずれ重要な役割を占めることになる。大学生は、その多くは原則として4年間で卒業して社会人になる。いわゆる社会人予備軍である。そのため、その段階から大学間連携のESDから協議会や加盟団体、さらには協議会には加盟していない市民団体等にふれあうことで、自己の社会貢献の仕方や、活動の仕方、パソコンやウェブサイト等を活用できるマンパワーの提供などができ、より一層のESDの充実と市内各市民団体の「見える化」「つながる化」に資するものと考ええるからである。

以上4つの論点は、どのような「見える化」「つながる化」が北九州型として望ましいのかということにつながっている。「まちなかESD」の開始とともに、ESDに携わる皆が真剣に考え始めている現在、より議論を深めていく必要がある。

本研究は、平成24年度九州国際大学社会文化研究所共同研究費助成「北九州市のESDの取組の現状と課題——「+（プラス）ESD」の視点を導入するための調査研究（研究代表 神山智美（九州国際大学法学部准教授）、共同研究者 細井陽子（九州女子大学家政学部講師）」

の助成を受けたものである。

アンケートの実施と、協議会についてのヒアリング等で、北九州ESD協議会の三隅佳子副代表及び後藤加奈子さんをはじめ、北九州ESD協議会運営委員会の皆さま、加盟団体の皆さまには、多大なご協力をいただいた。不十分ながらも本論稿としてまとめることができたのは皆様のおかげであり、ここに感謝の意を表するものである。

## 注

- 1 北九州ESD活動「未来パレット」認知度調査（北九州ESD協議会 調査・研究プロジェクト調べ）によれば、「ESDを知っていますか？」という問いに対して、平成23年度（2011年）は、①知っている7%、②聞いたことがある10.8%、③知らない82.2%であったのに対して、平成24年度（2012年）は①知っている21%、②聞いたことがある34%、③知らない45%と、飛躍的に認知度は上がっている。
- 2 環境省HP+ESDプロジェクト<http://www.p-esd.go.jp/top.html>（2015年（平成23年）2月28日筆者閲覧）
- 3 本稿の元資料となったアンケートは、平成24年度社会文化研究所共同研究費助成「北九州市のESDの取組の現状と課題——「+（プラス）ESD」の視点を導入するための調査研究」をうけ、北九州ESD協議会三隅佳子副代表のご協力のもとに、北九州ESD協議会運営委員会のご了承を得て実施した。
- 4 協議会を立ち上げ牽引されてきた三隅佳子副代表へのヒアリング、及び長年にわたり多義的なESD活動に携われ現在は協議会本部に勤務されている後藤加奈子さんへのヒアリングといただいた資料等を基に、筆者がまとめた。
- 5 協議会HP <http://www.k-esd.jp/>（2015年（平成23年）2月28日筆者閲覧）
- 6 外部からは「公害克服の町」「鉄冷えの町」と称されるが、既に北九州市民に至ってはこのように称されることにかかなりの違和感を抱いており、①の要素は現代では確認しづらい。
- 7 協議会HPによれば、2011年（平成23年）11月現在、協議会には71の加盟団体が存在しているようであった。筆者がアンケート調査を発送したのは2012年（平成24年）11月16日であり、加盟団体は当時よりは増えていたが、送付先住所もしくは電子メールアドレス等が正しく認識できる場所は71加盟団体であったため、それら全件にアンケートを送付した。なお加盟団体に関する資料は協議会事務局から提供を受けた。
- 8 アンケート回収については、期日までにご返答いただけない全ての加盟団体に電話でご返送をお願いした。
- 9 2006年（平成18年）9月に協議会が発足したため、それ以前の時節を記入した

加盟団体を全て「平成18年9月加盟分」として集計した。

- 10 自由記述のため、回答者の記載事項が多く、その結果全てを掲載することはできない。そのため、回答者等へのフィードバックにおいては全てを記載して報告したが、本稿ではそれらの内容をより精査し、主要なもののみ掲載した。
- 11 瀬戸昌之・森川靖・小沢徳太郎『文科系のための環境論・入門』有斐閣アルマ(1998) p.9
- 12 平成25年(2013年)3月に「北九州まなびとESDステーション」をオープンさせ、本格的な展開がなされている。

資料 1：  
平成24年度九州国際大学社会文化研究所共同研究に関する個別調査票（アンケート）調査

お願い：「御団体名」「アンケート記入者ご氏名」等はできるだけご記入ください。ご記入いただいた団体には、アンケート集計結果のダイジェスト版をお送りしたく存じます。

御団体名 ( ) ( ) ( )  
 アンケート記入者ご氏名 ( ) ( ) ( )  
 アンケート記入者ご連絡先 ( ) ( ) ( )  
 ご住所 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 お電話 ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )  
 電子メールアドレス ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

問1：あなたの団体はいつごろから北九州ESD協議会に加盟されていますか？

平成 年 月 ころから

問2：あなたの団体が北九州ESD協議会に加盟されたきっかけは何ですか？

- リレを記してください。(複数回答可)
- 北九州ESD協議会関係者のすすめがあったから
- 団体のメンバーが自発的に北九州ESD協議会に加盟したいと考えたから
- 団体がESD（持続可能な社会づくり）に関連した事業をしているから
- 加盟費用が無料だから
- 他の団体も加盟したから
- その他 ( )

問3：あなたの団体は何に関する取組をされている団体ですか？  
 □にレを記してください。(複数回答可)

- 幼児教育
- 生涯学習
- 国際関係
- ジェンダー関係
- 福祉関係
- その他 ( )
- 学校教育
- 開発教育
- CSR関係
- 人権関係
- 平和教育関係
- 青少年育成関係
- 環境関係
- 食育関係
- 地域活動関係
- 健康関係

問4：あなたの団体では北九州ESD協議会の4つのプロジェクトのうちどのどこに属していますか。(明確におわかりのところのみで結構ですのでご記入ください。(複数回答可))

- 地域プロジェクト
- 広報プロジェクト
- 調査研究プロジェクト
- ユーストプロジェクト

問5：あなたの団体が北九州ESD協議会に加盟されて、どのようなメリットがありましたか？□にレを記してください。(複数回答可)

- 北九州ESD協議会のHPに団体名がアップされる。
- 北九州ESD協議会のHPのリンクから、団体の活動が紹介できる。
- 北九州EDD協議会が企画した各種イベントの情報を得ることができ。
- 北九州ESD協議会の関連する各種イベント等に優先的に出席できる。
- 北九州ESD協議会の活動報告発表会が、団体の活躍の場になる。
- 北九州ESD協議会の活動報告発表会が毎年次開催されるため、1年間EDDの活動の総括と次年度の目標決め等ができて、メリハリがつけられる。
- 北九州ESD協議会の関連するイベントで学びの機会を得られる。
- 北九州ESD協議会のML(メーリングリスト)で、他の団体が主催するイベント情報を知ることができ。
- 北九州ESD協議会のML(メーリングリスト)で、他の団体の活躍ぶりがおわかり、刺激になる(自分たちもがんばらうと思える)。
- その他 ( )

問6：あなたの団体が北九州ESD協議会に加盟されていて、さらにもどのようなことを望まれますか？(自由記述)

問7：過去1年間で北九州ESD協議会の活動に参加した回数は何回ですか？

(            ) 回

問8：そのうち各プロジェクトのミーティング（会議）に参加した回数は何回ですか？

(            ) 回

問9：ミーティング（会議）に参加していない場合、参加しにくい理由は何ですか？（自由記述）

問10：あなたの団体の活動とESD(持続可能な開発のための教育)の活動との関連性を次の選択肢のうちから一つ選んでください。

- 非常にそう思う⇒問11へ     まあまああそう思う⇒問11へ  
 あまり思わない                     全く思わない

問11：問10で、「非常にそう思う」「まあまあそう思う」と答えられた方にお尋ねします。あなたの団体のESDらしいところを教えてください。（自由記述）

問12：他の北九州ESD協議会メンバーと協働したいことはありますか？あればご記入ください。（自由記述）

問13：ESD活動をやっていて、困っていることはありませんか？もしあれば、そのときにどういうサポートを受けたいですか？（自由記述）

問14：あなたの考えるESDについてのイメージをご自由にお書きください。  
（E教育）とSD(持続可能な開発)とのつながりについてのイメージ等、ご自由にお書きください。（自由記述）

問15：あなたの団体のご活動の中で、今後どのようにESDの理念を展開していかうと思われていますか？お考えがあればお記してください。（自由記述）

ご協力ありがとうございます。添付の封筒に入れてご投函下さい。